

神戸電鉄粟生線沿線地域におけるモビリティ・マネジメント実施業務（調査結果概要）

1. 目的及び概要

「神戸電鉄粟生線」の活性化・利用促進を目的として、自動車から公共交通（粟生線）への利用転換を効率的・効果的に進めるため、主に以下の取組を実施した。

① 沿線住民を対象としたトラベル・フィードバック・プログラム

※ トラベル・フィードバック・プログラム(TFP)とは、モビリティ・マネジメントの手法の一つで、一人ひとりの自律的な行動変化を促すコミュニケーション型のプログラム

※ モビリティ・マネジメントとは、一人ひとりの行動や意識を変化させ、自らの自発的な意思によって、公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に利用する状態へと変えていく交通施策

② 沿線企業を対象としたモビリティ・マネジメント

③ シンポジウムの開催

2. 沿線住民を対象としたトラベル・フィードバック・プログラム

(1) 概要

「粟生線」の利用促進を目的として、粟生線沿線（神戸市・三木市・小野市）の住民を対象に、自分自身の移動手段について振り返っていただき、今よりも“粟生線利用”を増やすことができな
いかを考えていただくための“きっかけ”づくりと、さらに、実際に粟生線を利用していただくため
の呼びかけを、アンケート形式で実施した。具体的には以下の2段階で実施した。

● 第1ステップ(9月中旬)

沿線 10,000 世帯(駅から概ね1km圏内の世帯を対象)に、「粟生線」利用を促す動機付け冊子と、コミュニケーションアンケートを郵送配布・回収した。

(神戸市:3,375 世帯、三木市:4,552 世帯、小野市:2,073 世帯)

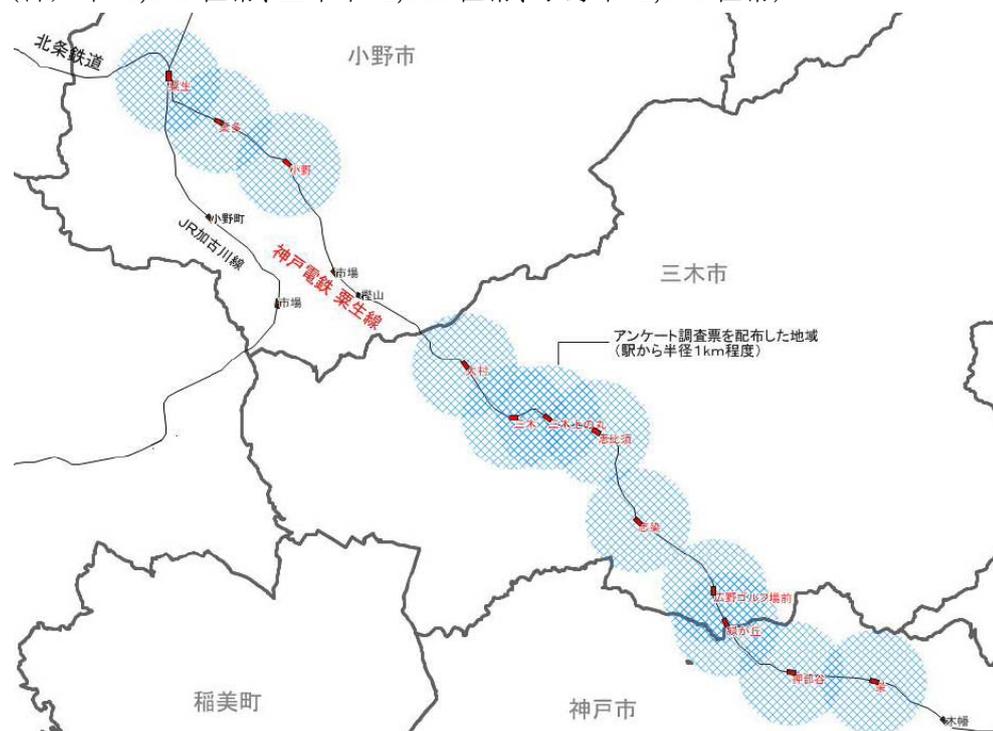
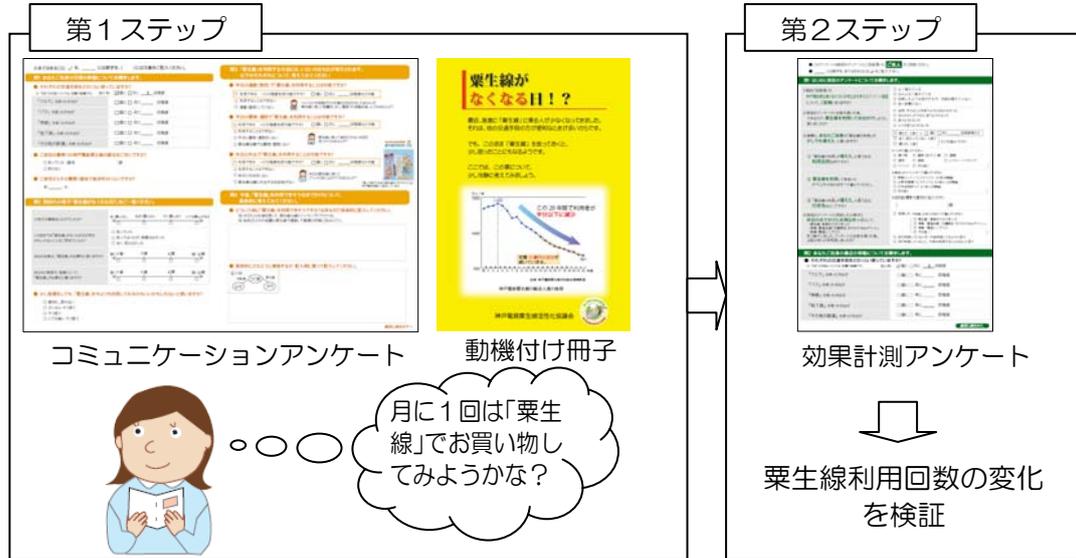


図 調査対象地域

● 第2ステップ(11月中旬)

第1ステップ回答者の中から、引き続きアンケートに協力頂ける方(2,128 世帯)を対象に、効果計測アンケートを郵送配布・回収し、粟生線の利用促進効果を検証した。

(神戸市:713 世帯、三木市:990 世帯、小野市:423 世帯、その他 2 世帯)



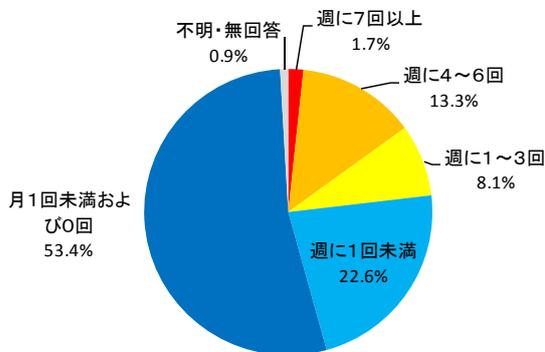
(2) コミュニケーションアンケート結果 (9月)

2,878 世帯・3,934 人の方から回答をいただいた。(今後もアンケートに協力 2,751 人)

【結果概要】

・約半数の方が、粟生線の利用は月に1回未満と回答された。

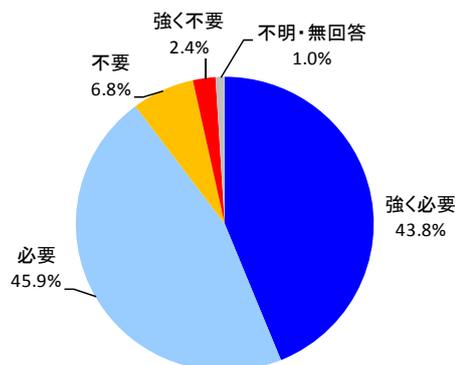
「神鉄」を使った外出の回数



週に7回以上	66件	1.7%
週に4~6回	524件	13.3%
週に1~3回	320件	8.1%
週に1回未満	888件	22.6%
月1回未満および0回	2100件	53.4%
不明・無回答	36件	0.9%
合計	3934件	100.0%

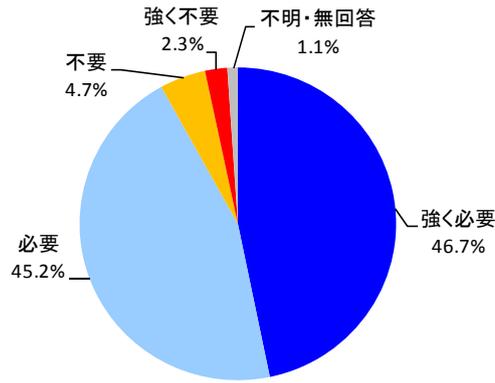
・一方で、約90%の方が自分自身や家族、地域にとって粟生線は必要と回答された。

回答者自身の粟生線の必要性



強く必要	1725件	43.8%
必要	1806件	45.9%
不要	268件	6.8%
強く不要	96件	2.4%
不明・無回答	39件	1.0%
合計	3934件	100.0%

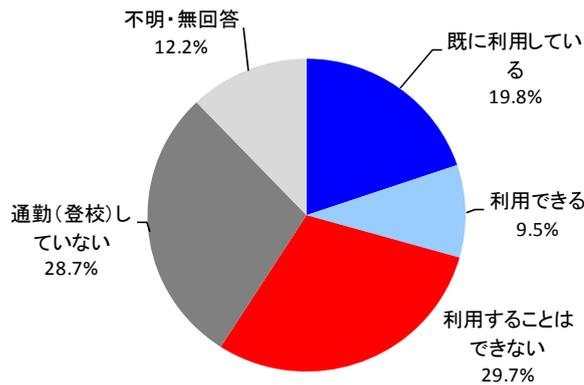
家族や地域にとっての粟生線の必要性



強く必要	1839件	46.7%
必要	1779件	45.2%
不要	185件	4.7%
強く不要	89件	2.3%
不明・無回答	42件	1.1%
合計	3934件	100.0%

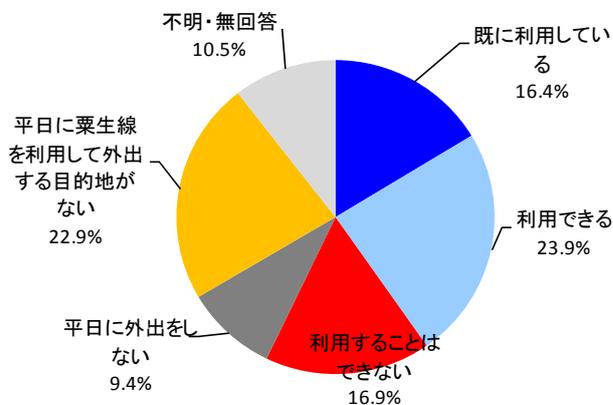
・平日の通勤・通学では約 10%、平日の外出(買い物・通院など)では約 20%の方が今後利用できる可能性があるという回答された。

平日の通勤・通学時における粟生線利用の可能性



既に利用している	780件	19.8%
利用できる	375件	9.5%
利用することはできない	1170件	29.7%
通勤(登校)していない	1129件	28.7%
不明・無回答	480件	12.2%
合計	3934件	100.0%

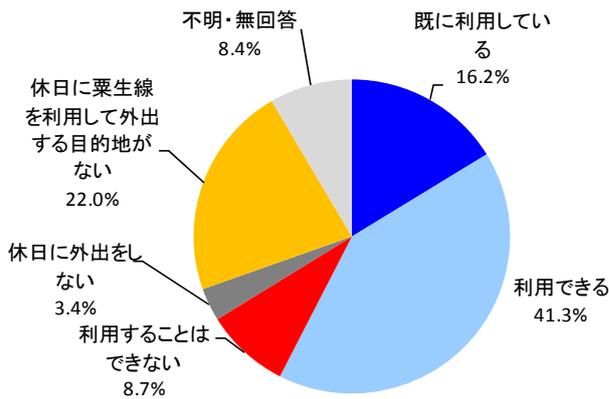
平日の外出(買い物・通院など)における粟生線利用の可能性



既に利用している	644件	16.4%
利用できる	939件	23.9%
利用することはできない	666件	16.9%
平日に外出をしない	369件	9.4%
平日に粟生線を利用して外出する目的がない	901件	22.9%
不明・無回答	415件	10.5%
合計	3934件	100.0%

・また、休日の外出では約 40%の方が利用できる可能性があると回答された。

休日の外出(レジャーなど)における粟生線利用の可能性



既に利用している	639件	16.2%
利用できる	1623件	41.3%
利用することはできない	341件	8.7%
休日に外出をしない	133件	3.4%
休日に粟生線を利用して外出する目的がない	866件	22.0%
不明・無回答	332件	8.4%
合計	3934件	100.0%

その他粟生線を利用しやすくする取組として、以下の意見があった。

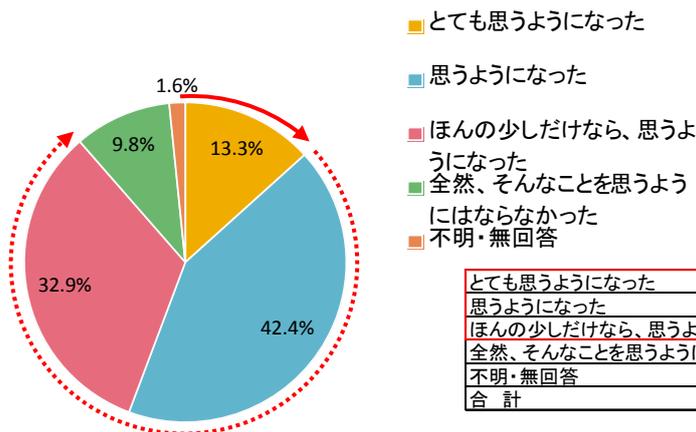
- ・運賃の低廉化、企画切符の充実
- ・所要時間の短縮
- ・利用者数に応じた運行本数、車両数の設定
- ・競合する路線バスとのサービス水準差の是正、バスと連携したマップの作成
- ・各種団体への積極的な利用促進要請
- ・学校・企業の誘致や住宅地開発などによる駅周辺の活性化 等

(3) 効果計測アンケート結果 (11月)

1回目のアンケートに協力いただいた方のうち、2,751人を対象に、どの程度粟生線利用が増えたかをお聞きする2回目のアンケートを実施し、1,627人の方から回答をいただいた。

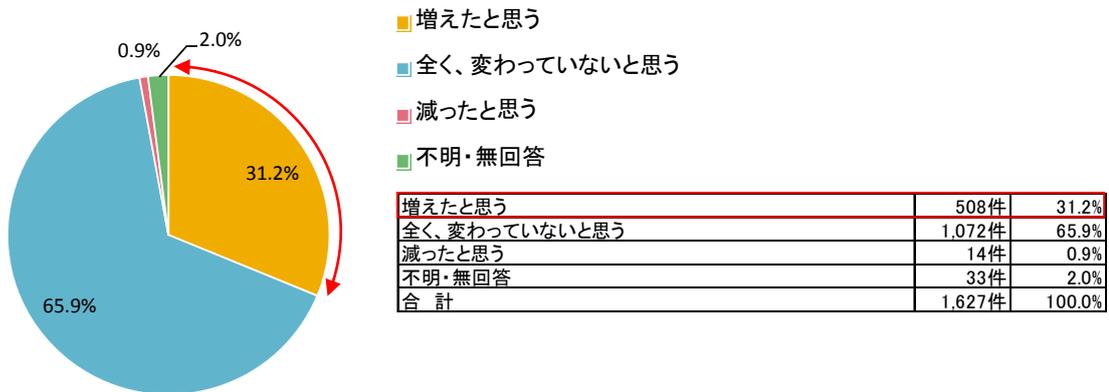
【結果概要】

・約 90%の方が、粟生線を利用して出かけようと思ったと回答された。

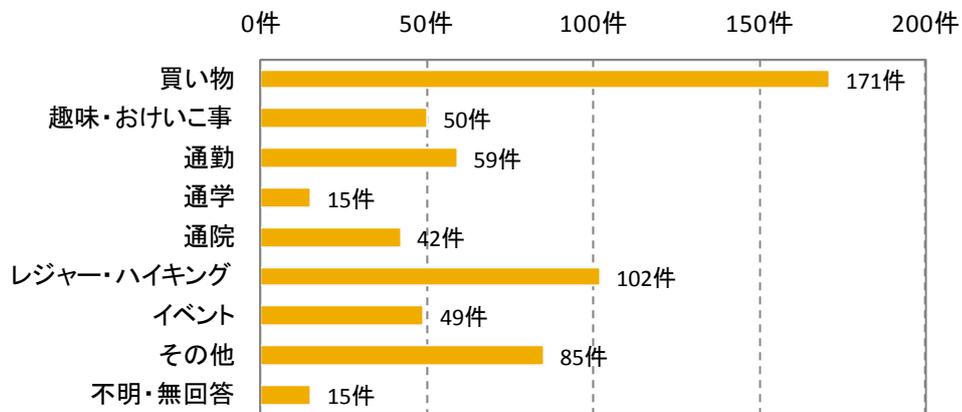


とても思うようになった	216件	13.3%
思うようになった	690件	42.4%
ほんの少しだけなら、思うようになった	536件	32.9%
全然、そんなことを思うようにはならなかった	159件	9.8%
不明・無回答	26件	1.6%
合計	1,627件	100.0%

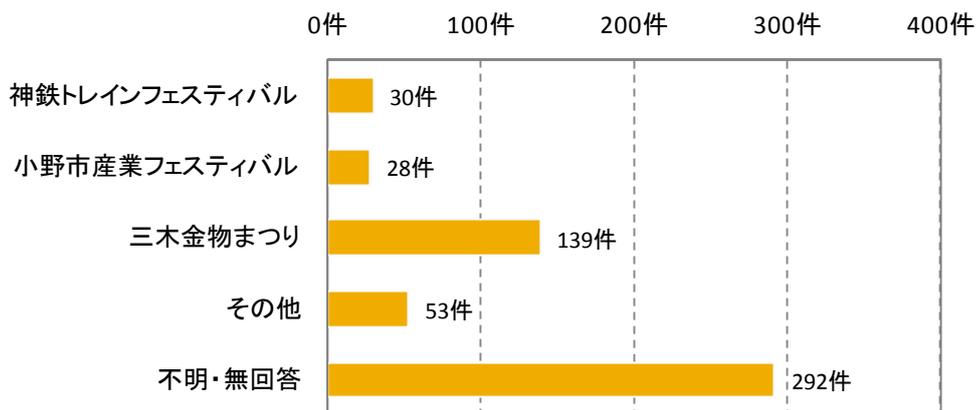
・約30%の方(約500人)が、以前より粟生線利用が増えたと回答された。利用目的は、レジャー、ハイキングが多く、主な行き先としては、三宮、新開地などの神戸都心部のほか、三木金物まつりに行く際に利用された方もおられた。



〔結果：増えた利用目的（回答数=508件）〕

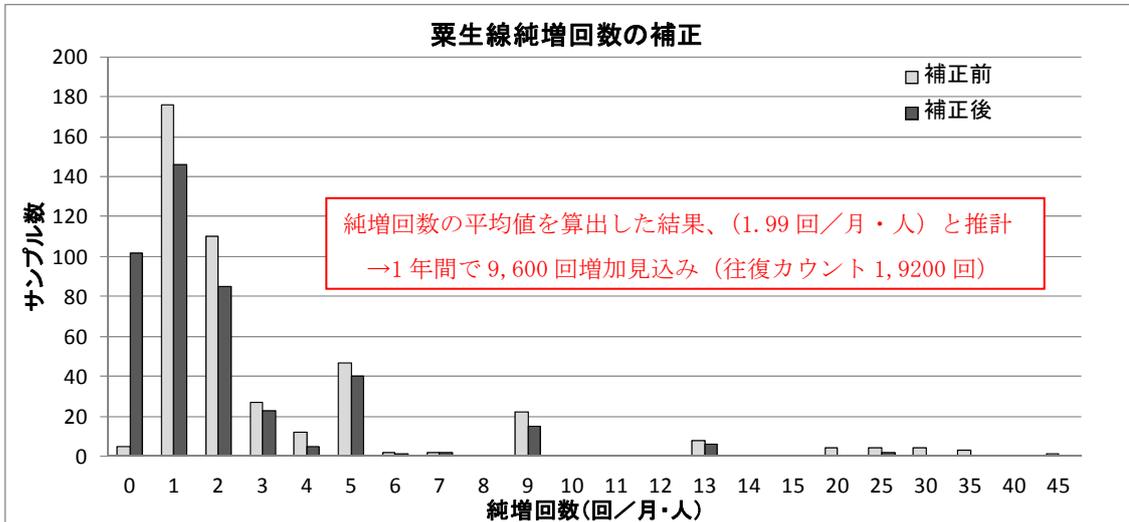


〔結果：粟生線を使って参加したイベント（回答数=508件）〕

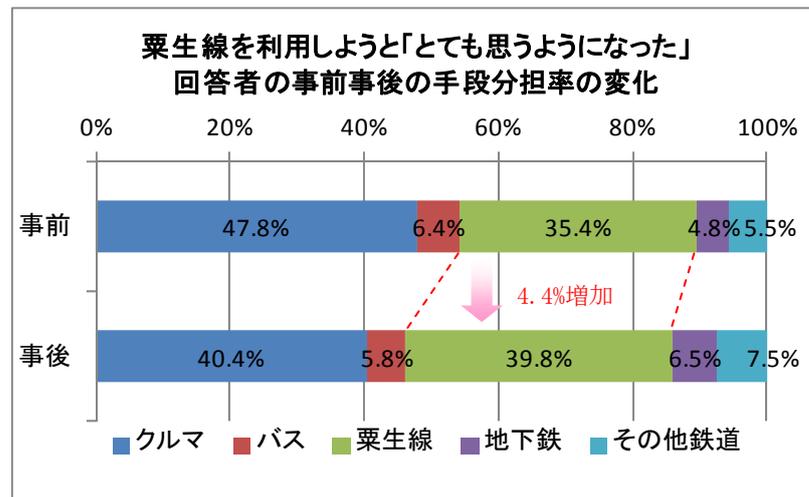


- 500 人の内、増加回数の記入があった方(約 400 人)について、第1回目のアンケートからの純増回数を推計したところ、平均 1.99(回/月・人)と見込まれる。

A	効果検証アンケートにおいて「粟生線の利用」が「増えたと思う」と回答したサンプル	508件
B	Aの内、「増加回数」の記入があったサンプル	427件



- 今後も引き続き、アンケート等に協力できると回答いただいた方は、1120人であった。
- アンケート回答後の粟生線の利用意向別に事前事後の各交通手段別の利用回数を集計した。その結果、できるだけ粟生線を利用しておでかけしようと「とても思うようになった」と回答した層は粟生線の分担率が4.4%増加している。



※手段分担率=手段別平均利用回数÷手段計平均利用回数×100

3. 沿線企業を対象としたモビリティ・マネジメント

粟生線沿線の事業者(企業・学校)を対象に、粟生線の利用状況、新たな粟生線利用の可能性、廃止された場合の影響(通勤手段、集客減少の懸念など)等を把握するアンケートを実施した。

実施時期：平成24年2月13日(月)～3月2日(金)

対象事業者：下記(1)、(2)の通り

【1,051件に配布し、353件から回答。(企業:318件、学校:35件)】

(1) 企業

● 小野市・三木市

粟生線沿線企業を対象とするため、駅2km圏内で登録従業員が5名以上の事業所を選定
(小野市及び三木市の商工会議所に、事業所の選定を依頼)

● 神戸市

神戸テクノ・ロジスティックパーク(神戸複合産業団地)に進出している企業を選定

(2) 学校

神戸市西区・北区、三木市、小野市にある、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学から、粟生線沿線の学校を選定

(粟生線の鉄道駅から、おおよそ5km圏内にある学校を選定)

【結果概要】

- ・ 全従業員(12519人)の内、約5%(640人)が、粟生線を利用して通勤していると回答された。

質問	単位	回答企業計	三木市	小野市	神戸市	その他不明	
問1	従業員数	人	12,519	7,347	3,301	1,840	31
	うち非正社員	人	4,125	2,429	1,259	435	2
問2	神鉄利用	人	640	303	60	275	2
	従業員の神鉄利用割合	%	5%	4%	2%	15%	6%
問3	端末交通-徒歩	人	531	232	41	256	2
	端末交通-自転車	人	44	29	6	9	0
	端末交通-バイク	人	3	2	0	1	0
	端末交通-送迎バス	人	58	47	3	8	0
	端末交通-バス	人	4	2	1	1	0
	端末交通-その他	人	0	0	0	0	0
問4	マイカー利用	人	10,156	6,099	2,738	1,294	25
	地下鉄利用	人	94	37	7	50	0
	バス利用	人	155	78	23	54	0
	徒歩利用	人	399	269	121	9	0
	自転車利用	人	305	223	78	4	0
	二輪・原付利用	人	295	150	89	52	4
	送迎バス利用	人	75	43	0	32	0
	従業員のマイカー利用割合	%	81%	83%	83%	70%	81%
	従業員の地下鉄利用割合	%	1%	1%	0%	3%	0%
	従業員のバス利用割合	%	1%	1%	1%	3%	0%
従業員の徒歩利用割合	%	3%	4%	4%	0%	0%	
従業員の自転車利用割合	%	2%	3%	2%	0%	0%	
従業員の二輪原付利用割合	%	2%	2%	3%	3%	13%	
従業員の送迎バス利用割合	%	1%	1%	0%	2%	0%	

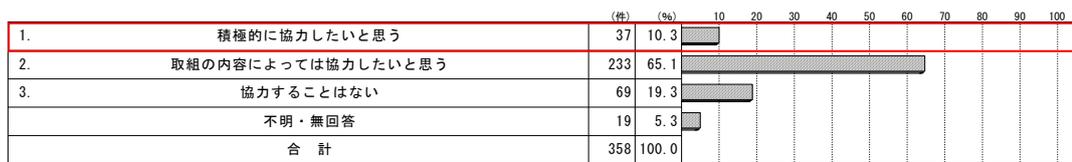
- 約50%の事業者が、粟生線が廃線になった場合、影響がないと回答された。



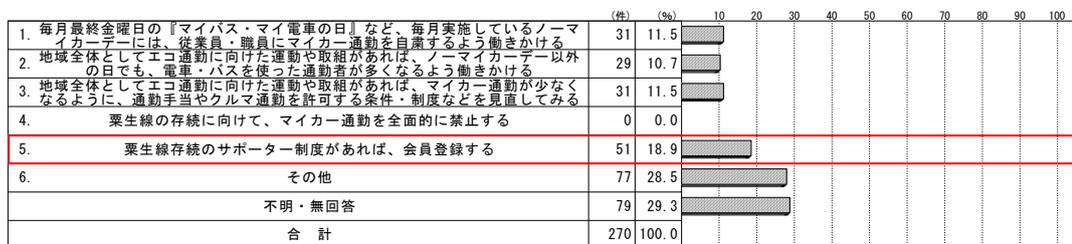
- また、約60%の事業者が、粟生線が廃線になった場合、特に対応しないと回答された。



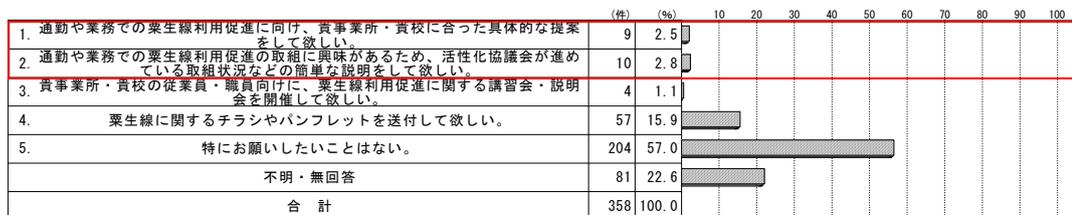
- 一方、利用者増加等に関する取組に、積極的に協力すると回答いただいた事業者は、37人であった。



- サポーター制度へ協力すると回答いただいた事業者は、51人であった。



- 取組状況の説明や事業所・学校にあった具体的な提案をして欲しいと回答いただいた事業者は、19人であった。



- ・ 粟生線の利用促進に向けた取組として、どのような取組が良いと思いますかという設問に対して、以下の回答をいただいた。

	(件)	(%)
1. ノーマイカーデーの徹底	40	11.2
2. 例えばエコ通勤に積極的な事業所・学校などに対して、表彰する制度の導入	60	16.8
3. 粟生線利用促進に積極的な事業所・学校に対して、駅広告スペースの無料使用制度の導入	132	36.9
4. 駅において、バス停の乗り場案内やバス時刻表の掲示	95	26.5
5. インターネット等でのバスの乗継情報等の提供	85	23.7
6. 鉄道やバスの、出発時刻と到着時刻の両方が分かる時刻表の作成	158	44.1
7. 鉄道と連動したバスダイヤの提供	197	55.0
8. 電車の車内において、座席の座りやすさの工夫や空調の改良による快適性の向上	56	15.6
9. 駅構内の夜間照明の増設など、駅施設の改善	68	19.0
10. 粟生線とバスとの連携乗車券の提供	159	44.4
11. 粟生線の新規通勤定期購入者が一定数いる場合、大口特約による割引制度の導入	102	28.5
12. 駅周辺でのパークアンドライド用駐車場の整備	130	36.3
13. 駅前での送迎用駐車スペースの確保	104	29.1
14. 駐輪場の整備	106	29.6
15. 駅での自転車の貸出	58	16.2
16. 駅前でのバス停設置	62	17.3
17. 駅と事業所・学校周辺とを連絡するアクセスバスの導入	92	25.7
18. その他	39	10.9
不明・無回答	59	16.5
合計	358	100.0

<その他の記述のまとめ>

●企業の意見

- ・ 運賃・企画切符 9 件
- ・ 沿線イベント企画・情報提供 6 件
- ・ 運行本数・車両数 5 件
- ・ 所要時間 4 件
- ・ 他線との接続 4 件
- ・ 学校・企業誘致、宅地開発、駅前開発 4 件
- ・ 駅からの公共交通手段の充実 3 件
- ・ 神姫バスとのサービス格差をうめる 2 件
- ・ 団体への利用促進要請 2 件
- ・ その他 5 件

●学校の意見

- ・ 地域行事との連携（新しい企画も）B1 グランプリなどのような例えば小野創作グルメグランプリ。・ 駅名の変更。・ 駅毎の名物の発掘。・ 動物駅長の配置。地元のユルキャラとのコラボ。・ 駅毎のスタンプ配置。スタンプラリー。・ 学校行事に粟生線を利用する企画の提案（遠足等）
- ・ 駅から近くのところ公園をつくる。
- ・ 運賃をバスより安くする。

4. シンポジウムの開催

2月19日(日)、三木市文化会館において、粟生線の維持と存続を目指し、沿線地域の住民一人ひとりができることを考えるため、「乗って残そう 粟生線のある未来の生活」と題するシンポジウムを開催した。

13:00	開会	北井 信一郎	粟生線活性化協議会会長・三木市理事
13:05	基調講演	「持続可能な公共交通と粟生線の活性化」 土井 勉 京都大学大学院特定教授・粟生線活性化協議会座長	
13:50	取り組み報告	小野高等学校 三木東高等学校 RACDA 岡会長	ラジオドキュメント作品「線路はどこまでも続かない」 経営アントレプレナー等の取り組み RACDAの取り組み紹介
14:25	休憩・パネル展示鑑賞		
14:35	パネルディスカッション	コーディネータ パネリスト	土井 勉 京都大学大学院特定教授・粟生線活性化協議会座長 安福 恵子 三木市長協議会連合会会長 多鹿 豊 小野市商店街理事 中野 美都子 神戸市西区押部谷町連合自治協議会副会長 岡 将男 NPO法人公共の交通ラクト 理事長 正司 健一 神戸大学大学院 経営学研究科 教授 三津澤 修 神戸電鉄株式会社 常務取締役・鉄道事業本部長 北井 信一郎 粟生線活性化協議会会長・三木市理事
16:00	閉会		

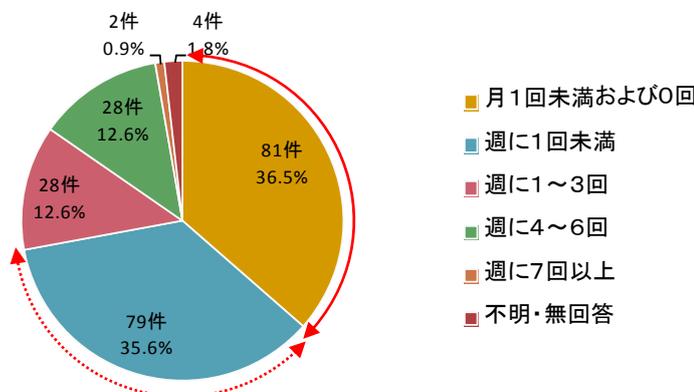
基調講演では、粟生線がなくなった時の地域への影響(渋滞の発生、地価の下落)や、粟生線存続に向けた具体的な取組事例について分りやすく紹介され、続いて、地元高校生による粟生線活性化の取組事例の報告があった。また、NPO法人RACDAから、取組事例とともに、鉄道の利用促進のためには、沿線住民による主体的な取組が重要であるとの報告があった。

さらに、パネルディスカッション形式で、“粟生線がなくなったらどうなるのか”“私達一人ひとりが粟生線を残すためにできることは何か”をテーマに議論いただいた。粟生線利用を増やしていくためには、企画乗車券を上手に使うとお出かけすることをクチコミなども通じて広めていくことや、サポーター制度を創設して粟生線を利用する機会がない方からも寄付を募る仕組みづくりが重要であり、また、存続に向けた活動を継続していくには、楽しく取り組むことが重要との意見が出された。

参加者 313 名の内、222 人からアンケートに回答いただいた。

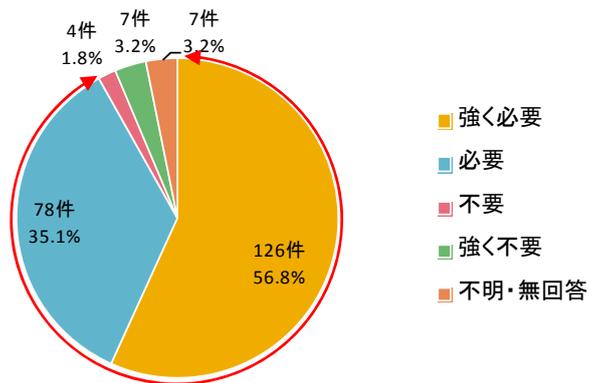
【結果概要】

・約 40%の方が粟生線の利用は月に1回未満、また、約 40%の方が週に1回未満と回答された。

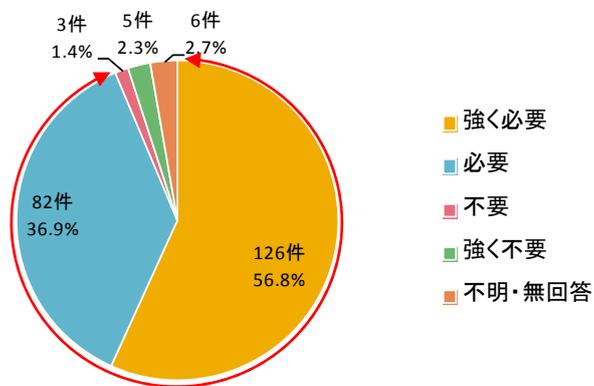


・一方で、約 90%の方が自分自身や家族、地域にとって粟生線は必要と回答された。

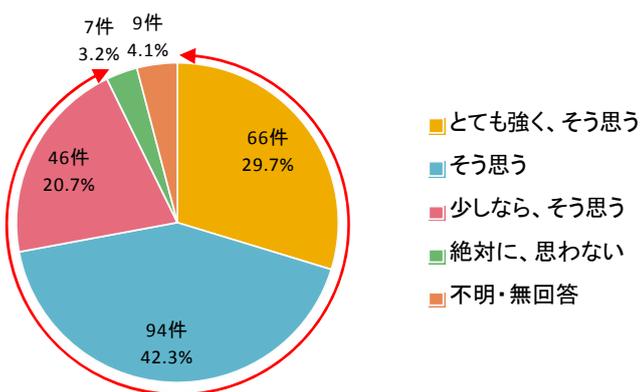
粟生線の必要性(回答者自身)



粟生線の必要性(家族・地域)

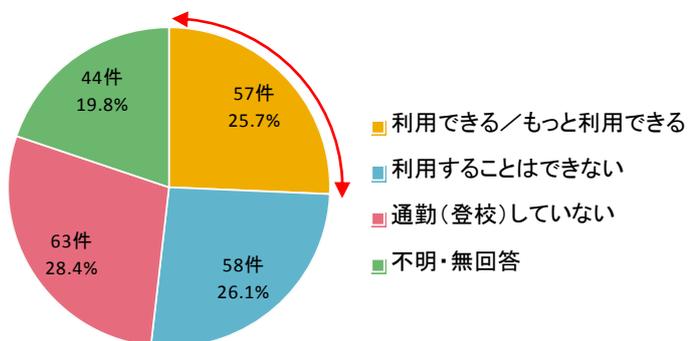


・少し無理をしても、「粟生線」を今よりも利用してみると回答頂いた方は、約 90%おられた。

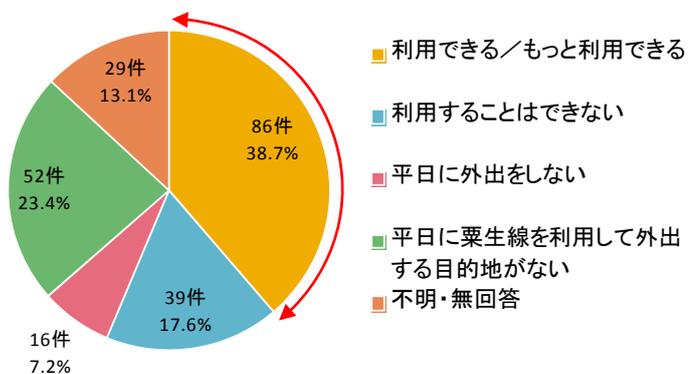


・平日の通勤・通学では約 30%、平日の外出(買い物・通院など)では約 40%の方が今後利用できる可能性があるとは回答された。

「平日の通勤・通学で「粟生線」を利用することは可能ですか？」

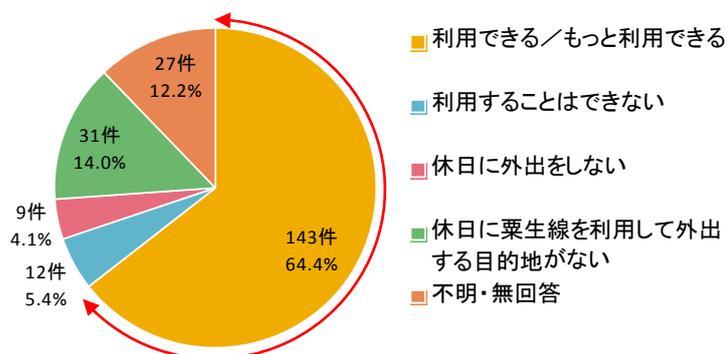


「平日の外出(買い物・通院など)で「粟生線」を利用することは可能ですか？」



・また、休日の外出では約 60%の方が利用できる可能性があるとは回答された。

「休日の外出(レジャーなど)で「粟生線」を利用することは可能ですか？」



・今後の活動に興味を持っていると、回答いただいた方は、106名であった。